

ほほえみ

7月3日（水）授業研究会

1年生 ～かわさき共生*共育プログラム～

「SOSはどこに出す？」（SOSの出し方・受け止め方教育）

授業者 下平間小学校 岸根 薫理

講師 元東京聖栄大学健康栄養学部教授 岡田 弘先生



今回の授業研究会では、令和4年度に本研究会常任委員の岸根薫理教諭が、総合教育センターの長期研究員として、援助希求的態度を育成するために、教育相談研究会議で研究・開発した「SOSの出し方に関する教育プログラム」の授業をもとに、令和5年度、SOSプログラム小学校バージョン2時間を作成、効果検証した実践をもとに授業公開をしました。

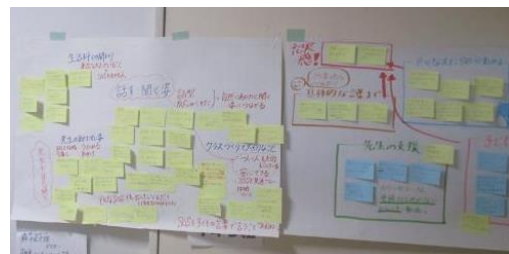
授業の様子

前時の「もやもや→すっきりだいさくせん」では①「ストレスに気づき、ストレスの対処法を知る」こと、そして本時の「SOSはどこに出す？」では、②「相談のよさとためらいに気づく」③「相談先を知り、信頼できる人へ援助を求めようと思う」ことをねらいとして授業を行いました。

低学年の発達段階を考慮して、学校内での相談できる人を写真から選んだり、身近な場面でどのような言葉で相談したらよいか具体的に考えたりしていました。子ども達から、先生の名前がたくさん出てきている様子から、身近に安心できる、信頼できる大人がいることが伺えました。

研究協議の話題

- ・子どもたちの話を聞く・話す姿…話型、反応の仕方
- ・クラスづくりで大切なこと…一人一人を大切にしている
- ・生活科との関わり…身近な大人がいること=SOSを出せる人
- ・先生のあたたかい姿…つながる声かけ、受け入れる、先生も自己開示
- ・SOSを子どもの言葉で言うこと…「あのね」など



講師：岡田先生より



- ・子どものうつ病について…NHK「今日の健康」参照
- ・下地づくりの授業の推進を…心身の健康教育・温かい人間関係を育む教育（かわさき共生*共育プログラム）
- ・「般化」と「繰り返し実施」の必要性
- ・まず教師同士の人間関係づくりを行う
- ・成長のためには等身大の自分にかえること…教師の自己受容が他者受容を生むことへの理解

参加者の感想

・4月からの学級経営の積み重ねがすばらしく、勉強になりました。SOSの授業だけをがんばっても意味はなく、今まで作ってきた担任との信頼関係、クラスの雰囲気があってこそその授業だと思いました。学校の中のどこにでもSOSを出せる大人がいる安心感をもたせるよう自分の学校でも取り組みたいと思いました。

※授業の指導案や岡田先生のお話の動画や資料を学級経営研究会のクラスルームで見られるようになっています。ご参照ください。

（文責：下布田小 梶原由布子）